

私の艦装

超小型ボート「ミニワンツー」の堀口流艦装術

小誌のコラム「ミニボートの海から」でおなじみの堀口文朗さん(74歳)は、ボート釣りをこよなく愛する、自称「ヘボ釣り師」だが、送られてきた最新のコラムを読んだら、ヘボ釣り師、実は名艦装師だった。……ということは……

「小粒でピリリ、ハイブリッドボート」と題する新着コラムの一文は、

「15年間愛用してきた2分割ボートは非常によくできた船だったが、いかんせん、砂浜から出船することの多い老釣り師にとっては、47キロの重量がネックだった。そこでかねてから強い関心を持っていた軽量、コンパクト、安全が売りの「ミニワンツー」を購入、知恵と工夫による独自のマイ艦装で、とても乗りやすい超小型ボート〈ホリエースⅡ〉になった」……というものだった。注目すべきはその艦装内容のあれこれ……。

これは小誌の読者に紹介すべきだ、いや、紹介しなければならない、と判断した編集部は、早速堀口さんにその旨連絡した。

以下は、編集部の要請を快く受けていただいた堀口さんの、堀口さん自身による「ミニワンツー艦装工作」の詳細である。

従って95ページのコラムは、新々着コラムです。(編集部)



我流の「進水式」をしました。たった一人の式典参加者は、いつも同行する釣友のUさんです。こんな小舟でも、命を託すことに変わりなく、形ばかりでも進水式をやって安全を祈願したい。パウデッキの上に「安全・ホリエース」と書いた扇子を立て、お神酒と小さな丸餅を供え、左右に栴や花も飾り、祭壇らしきものできました。手を合わせ「海上安全・海路平安」を祈りかつ誓い、海にかかわる神々を思い出しながらご加護を願いました



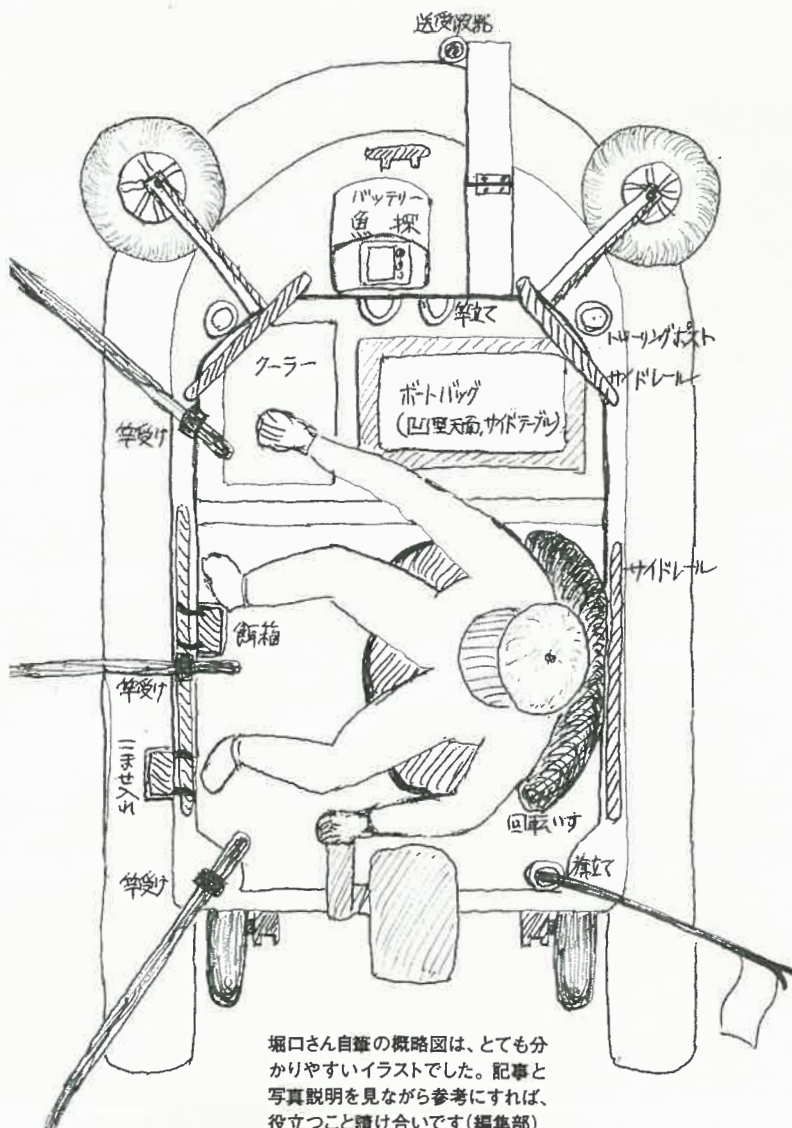
写真上は脚を折り畳んだところ、写真下は脚を伸ばしたところ、写真右はボートに設置したところです。設置した椅子の下に、固定用の板を置いています。ボートを走らせると前部が上がりますが、これは、ボートを走らせると前部が上がりますが、椅子が徐々に後ろへずれるため、滑り止めの役割です。



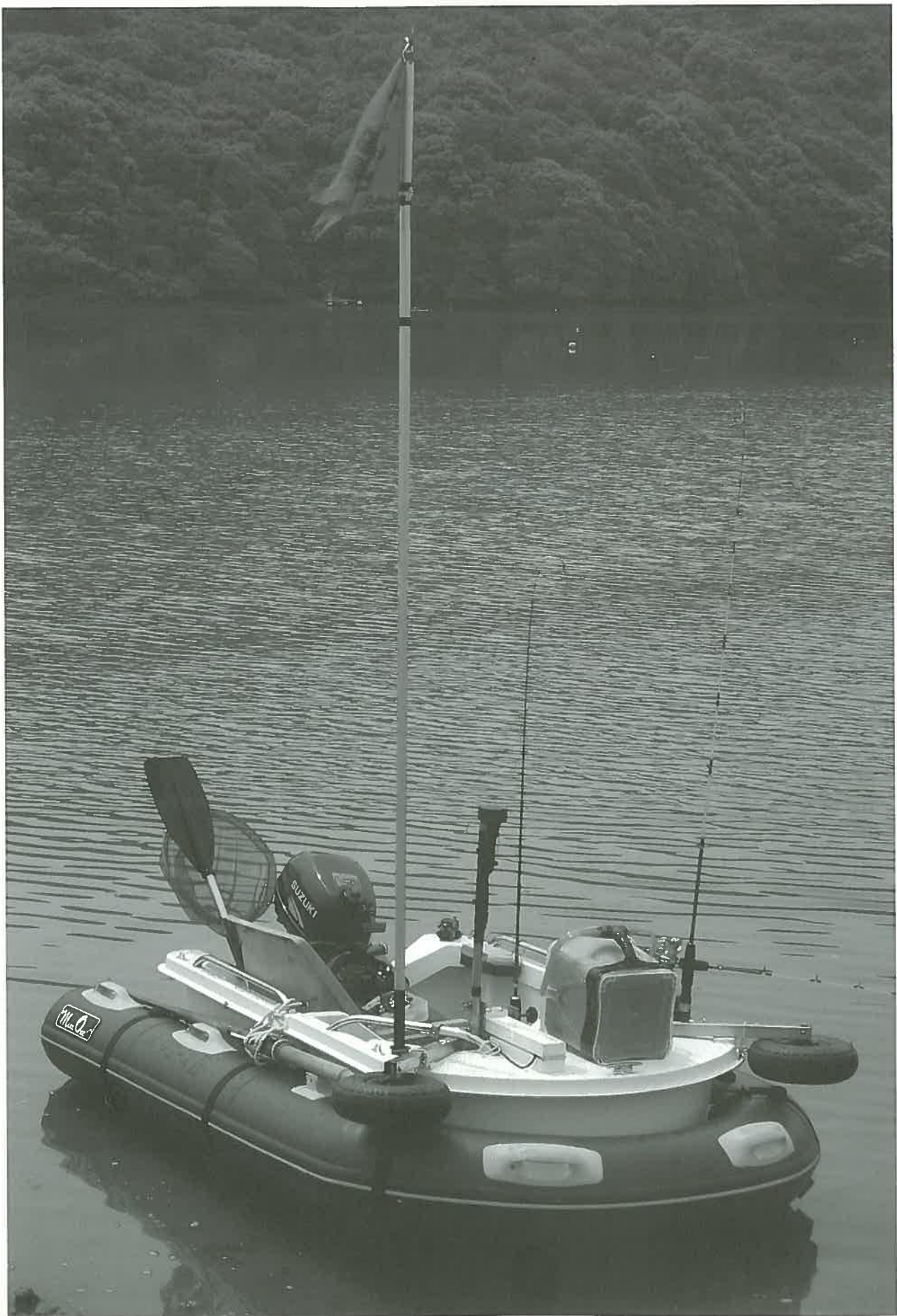
ダウンサイジングしたワケは……

ボートの購入に際しては、誰でも少し大き目がほしいものですが、私は15年間、2人乗りボートにいつも1人で乗ってきたことを考えて、非常に軽い1人乗りのミニワンツーに注目しました。劇的な軽量化と安全性を1人乗りを実現していますが、一人で釣るならさほどスペースは必要なく、小さくても艀装を工夫すれば十分活用できると考え、2隻目のボートはダウンサイジングすることにしたのです。ミニワンツーは、全長2.2メートル、幅1.3メートル、重さは37キロしかありません。FRPの船体とOVCのU型フロートを合体させた、世界初のハイブリッドボートです。

そこで、限られた狭い船内の艀装は、まず、楽に釣りができる座席スペースを確保すること、次に、釣りに必要な道具を使いやすい位置に置くこと、の2点を柱に目指しました。艀装品の配置は「概略図」の通りです。



堀口さん自筆の概略図は、とても分かりやすいイラストでした。記事と写真説明を見ながら参考にすれば、役立つこと請け合いです(編集部)



海に浮かぶわがミニワンツーク・ホリエースⅡの雄姿(?)です



ボートを前から見たところです。折り畳み式アームを伸ばした送受波器の状態と魚探の位置、及びドーリーのパウデッキ先端への積載状態が分かればと思います。ドーリーの固定方法は、舷側のアイストラップにロープの小さな輪を付けて、これにドーリーの脚を通した後、サイドレールの下に差し込んで固定しています

タダになった オプション品

サイドレール4本、トローリングポスト2カ所、2連サオ立てはオプションですが、購入したボートが展示品だったせいか、すでに取り付けてありました。販売店で不要の意思を伝えると、無料にしてくれたものです。要するに、タダだったわけです。トローリングポストは旗立てなどの役に立ち、サイドレールは移動運搬などにたいへん役立っています。展示品を買うと得なことがあるなどは想定外でした。

購入後に取り付けた オプション品

まず、自分で取り付けたオプション品は、ドーリーです。ボート前後の重量バランスを考えて、出船後は取り外してパウデッキの先端

に置くようにしました。サイドレールの下へ、フレームを差し込んで固定しています。

ボート前部の機装

ボート前部のスペースには、寸法を測って(丁寧に測りました)、うまく収まるクーラーとボートバッグを購入しました。クーラーは、D社の旧型で23×37×28センチの11リットルです。ボートバッグは、S社の新製品で30×48×34センチです。



ボート後部左舷の状態です。サイドレールの真ん中にパイプラックを取り付けていますが、平常の2本サオでは左右2つにチビラックを使うので、着脱式パイプラックは付けていません。左の青い箱は、海側につるしたコマセ用のアミエビ入れ(100円ショップのゴミ箱)、右の内側へつるしているのは木製餌箱です。横に小さなサブ餌入れを合体しています



魚探です。カー用品店で見つけた踏み台バケツを、横置きに使いました。写真左はフタをした写真右はフタを外したところです。写真右の奥にバッテリーと接続線類がはいつています。魚探の下の台は、発泡スチロール製レンガ(100円ショップで購入)で、魚探を固定するのにぴったりでした



ボートを後ろから見た写真です。玉網をトローリングポストに立てていますが、ここに旗を立てるときは、そのすぐそばに小さくみえている自転車用傘立て部品(サイドレールにとりつけてある)に、玉網を差し込んで使用します

ボートバッグは、上ぶたの天面が凹型になっていて、小物が置けます。座席横のサイドテーブルとして大いに役立ち、ハサミやペンチなどを置いています。今まで釣りの最中に、ハサミはどこ？ ペンチはどこ？ と探すことがよくありましたが、このボートでは狭いがゆえに、手近な場所にモノが集中するようになり、探さなくてもよいようになりました。

ボート後部の艦装

ボート後部のスペースには、既設の中央座席を取り外して、回転イスを右舷寄りに設置しました。

背もたれの付いた回転イスは、腰痛持ちの私を旧ボートで15年間支えてくれた功労者です。なくてはならない必需品として、針金で補修し、新艇においても活躍しています。

今回の改良点は、運搬や収納の便を考えて脚を折り畳み式にしたことです。船底の段差に合わせて、前2本は17センチ、後ろの2本は27センチの品をホームセンターで購入しました。この脚の強度が心配でしたが、使ってみると十分でした。回転イスの右舷寄り設置で膝元にも余裕ができて、ゆったり腰掛けて釣りができるようになりました。が、困ったのは座席が船外機に近すぎて、スターターを引にくいことです。そこで、そのときにはクーラーに半分腰掛ける姿勢で、楽に引くようにしています。

船底の板の活用

座席下の船底に敷いた板(65×24センチ)は、回転イスの固定用でしたが、小型キャスターを

付けてボート移動の際に前部下に置き、転がるようにしています。ボート本体は非常に軽いのですが、荷物を載せて出船しようとすると、重くて前部を持ち上げるのが大変です。このキャスター付き補助版があると、コンクリートスロープではスルスルと滑って動き、たいへん楽です。

魚探、バッテリー、サオ受け……

魚探とバッテリーは、カー用品店で見つけた「踏み台バケツ」に収納して一体化しました。運搬に便利で防水にも効果があり、バウデッキに置くようにしました。送受波器は、上げ下げできるように折り畳み式アームを作って装着していますが、海中ではU字型フロートが支える形になるので下ろしたままで走れます。

サオ受けは3カ所に設けましたが、近すぎるので、中央のパイプラックはほとんど使用しません。製造元で作らなくなったのを、釣具店でやっと見つけて購入したのですが、出番は少ないです。

後部の旗立ては、百円ショップで見つけた「自転車用傘立て」の部品を、ステン曲げ板で固定しました。旗を前に立てると、釣るときにオーバースローで投げる邪魔になるので、右投げの私にはど



(左)2連サオ立てです。オプション品でしたが、タダになったサオ立てです
(右)回転椅子の滑り止め板に、小さなキャスターを付けた状態です。ボート移動の際に、ドリーだけでは前を持ち上げるのが重いので、前部の下にあてがって使用しています。椅子の下に置くとときは、キャスターが上になるように置きます

うしても後部に必要なのです。なお、自転車用傘たての別の部品は、前部のサイドレールに固定して、タモの差し込み穴に活用しています。

サイドレールは他に、餌箱を座席前につり下げるとか、コマセ用アミエビ入れ(百円ショップで買ったゴミ箱)をボートの外側につり下げるなどに活用しています。

残るはオールの装着

残っているのは、オールの装着です。これまでの出船では、釣ることや走行に不自由はなく満足していますが、オールの代わりにパドルというのは気になります。離着岸だけならパドルで十分でも、万一の場合にはオールだと思っていますので、15年間エンジン故障はありませんでしたが、やはりオールを装着しておこうと考えています。



ボート後部に取り付けた旗立てです。100円ショップで買った自転車用傘立ての筒部分です。ステンレスの曲げ板で固定しました



ボート前部に置いているボートバッグは、天面が凹型になっているので、サイドテーブルとして具合よく、ハサミなどを置いています



小型三脚(千円程度)2台を使って、愛車(ニッサンNV200)に載せます。車内の2、3列目はシートを外しています。宣伝のつもりはありませんが、この車はホイール間隔が広く床が低いので、ミニボート積載にはまことに具合がよく、積載車を思案中のかたにはご検討をおすすめします